

# 復興支援 継続誓う

1万5000人が犠牲となり、2633人が行方不明となっている東日本大震災から3年となった11日、県内では被災地に駆けつけたボランティアや被災地からの避難者らが、鎮魂の祈りをささげた。同時に、「復興途上の被災地を決して忘れない」と、支援の継続を改めて誓った。

## 被災地の子ども同士交流

### 21日団体設立 学生ら「息長い活動」



完成した募金サイトの画面をみながら、福島の子どもの交流などについて話し合う「おかやまパトーン」の学生たち（岡山市北区の岡山津島キャンパス）

## 県内避難者が 瀬戸内で集会

被災地などから県内に避難している人々でつくり、瀬戸内市内で月1、2回交流イベントを開いているグループ「つむぐる」が、同市内で集会を開催。参加した23人が午後2時46分に黙とうした後、「いまだに震災に向き合えない」など悩みや思いを吐露しつつ、強く生きようと誓い合った。

宮城県南三陸町でカキ養殖と民宿経営に携わり、家族6人で瀬戸内市内に身を寄せるカキ養殖パート渡辺由紀子さん(44)は「養殖の用具も民宿も流されたが、幸運にも養殖の仕事の声がかかって岡山で丸2年たち、地元の人によくしてもらっている。まだ震災と向き合えない避難者もいるが、何でも受け合える場として今後も続け、震災を乗り越えたい」と話した。

## 慈善オークション 50作家の128点

倉敷市では、絵画や彫刻、写真、工芸品など県内などの作家チャリティオークション「倉敷からの風2014」が、同市中央のクラブT&Gギャラリー幹とスペースみきで始まった。16日まで。

同オークションは今回で3回目。国際医療NGO\*「AMDA(アムダ)」を通じ、売り上げの約半分を被災地に寄付している。寄付の総額は過去2回で80万円に上る。代表の造形作家杉田修一さん(60)(倉敷市)が「10年は続けようと考えている。支援を続けることは被災地に『あなたたちの事は忘れていないよ』と伝えるメッセージになる」と訴えた。

\*NGO=Non Governmental Organization

## 6宗派の住職ら 岡山で慰霊祭

県内12の宗教団体などでつくり、被災地でのボランティア活動などを行っている「人道援助宗教NGOネットワーク(RNN)」は、犠牲者の追悼と被災地の復興を祈る慰霊祭を、岡山市北区の神道山黒住教本部日拝所で行った。

黒住教や金光教、カトリックなど6宗派から住職や信者ら約100人が参列し、黙とう。玉野市の主婦鈴木愛子さん(55)は「震災後にボランティアで宮城県仙沼市などを訪問したが、今でも苦しい思いをしている住民がいると思うと涙が出る。復興が進み、早く元の生活に戻ってほしい」と祈った。

被災地の子どもたちを県内に招くなどの活動に取り組みむ学生団体「おかやまパトーン」(岡山市)の支援で、福島県の子どもたちが被災地の子どもたち同士で交流するための団体「ふくしまパトーン」を21日に設立する。11日は、おかやまパトーンが同県の子どもたちを支援する募金サイトも開設。学生たちは「つながりを深め、息の長い支援にしたい」と思いを新たにしている。

「おかやま」は2011年5月、岡山大で「被災地のために何か支援したい」と集った学生や教職員有志で結成。東京電力福島第一原発事故による放射能の影響で外で遊ぶこともままならない福島市、グラウンド

に仮住宅が建てられ、思うように部活動の出来ない宮城県南三陸町から、子どもたちを岡山に招いたり、県内避難者と交流したりと幅広い支援に取り組んでいる。

福島との交流は同年夏、支援する側と受ける側を引き合わせる文部科学省のサイトで、福島市で日本舞踊を習う子たちのグループ「福島里の子」も出てきた。小学生から高校生までの約30人がこれまで3回、岡山を訪れて海水浴を楽しんだり、日本舞踊を披露したりしてきた。

同グループ指導者の花柳沙里樹さんによると、昨夏の岡山からの帰路、学生らの優しさに触れた子どもたちが感極まって泣きながら、「私たちが福島で『パトーン』をつなぎ、困っている人を支えたい」と団体の設立を訴えたという。

思いを知った学生たちが、被災地の子ども同士で交流する団体にするという活動の方法などをアド



献花の後、海に向かって黙とうする参加者ら（倉敷市の沙美海岸で）

## 短冊に思い煙で届ける

### 倉敷の海岸 鎮魂祈願式

倉敷市の沙美海岸では、被災地に物資を送るなどのボランティア活動を続けている市民団体「東日本大震災復興応援団」が鎮魂・復興祈願式を開き、約100人が参加。被災者への思いを記した折り鶴や短冊を煙にして被災地に届けようと、波打ち際で燃やした。

高洲真吾会長(69)らは震災直後から、県民らから集めたストローなどの物資を週1回5月1日、防潮堤が倒壊するなどの被害を受けた若手県釜石市の根浜地区などに送り続けている。

2012、13年の命日には倉敷市民らと一緒に被災地に赴く鎮魂ツアーを行った。

市立黒崎中生徒会長の2年原田桃奈さん(14)は「一刻も早い復興を」と祈った。この気持ちで被災地に届いてほしい」と願っていた。

ま」とつながりのある南三陸町と交流を持つことになった。世話人になる花柳さんは「被災地同士と言っても知らないことはかなり。子どもたちが主役になり、互いに足りない部分を補える関係に育てば」と期待する。

学生たちは19日から両市町を回って交流をはかる予定。

募金サイトは、サイト内企画と必要額を提案し、出資者を募る「クラウドファンディング」という仕組み。「おかやま」はこれまで、県内の企業・団体に協賛金を募り、活動に充ててきたが、「岡山の人のつながりを増やし、活動を継続可能にするため」に導入したという。

出資者には額に応じ、活動報告のメールや行事への招待といった「特典」もある。今回の目標額は9月中旬までに25万円、主に福島の子どもたちが宮城を訪ねるなど被災地をつなぎ費用に充て、余剰金は今夏の岡山での受け入れ費に活用する。

中心メンバーの教育学部3年玉置のぞみさん(20)は「岡山からの支援を長く続けるために、新しくできたつながりを広げたい」と話す。募金の詳細は、専用サイト(<http://www.naino-gun.jp/crowdfunding.php>)。